

1頁目に限り
「茶色」を塗ること。

平成16年度 基盤研究(C)(企画調査)研究計画調書

基盤C(企画調査) 1

注1. 別途平成16年度基盤研究(C)(企画調査)研究計画調書作成・記入要領(鶯色)を参照してください。
注2. 印の欄は研究機関において記入してください。

研究		(1) ・ (2)	審査区分	企画調査	機関番号	12608	
審査希望部門		分野	分科	細目	整理番号	細目番号(4ケタ)	
		数物系科学	数学	大域解析学		4105	
		類型	←「作成・記入要領」4.を参照	分割番号	A ・ B	←総合・新領域系のみ(「作成記入要領」3.を参照)	
ふりがな		いのうえ あつし		所属研究機関 ・部局・職	東京工業大学・大学院理工学研究科・教授		
研究代表者氏名		井上 淳 印					
研究課題	科学研究費審査への不服申立受付所(解析系)創設の試み						研究者総数
							3
研究経費 (千円)	使用内訳(千円)						
	会議費	印刷費	消耗品費	国内旅費	外国旅費	謝金	その他
2,015	200	100	15	1,400	0	300	0

研究目的

(企画調査の必要性及び共同研究等の意義・価値についても記入してください。また、「研究対象の種類」欄に1のものについては、将来、特定領域研究の研究領域として発展させる意義・必要性等についても併せて記入してください。)

米国流の「自由競争がすべての人間の行動を適正化する」かのような指針がグローバルスタンダードと称して至る所に導入されつつある。自由競争を謳うためには前提は「個人の確立」と「公正適格な審査」が必要であるが、これらの条件を満たすことは決して容易なことではない。その結果この行動指針はともすれば奇妙な弱肉強食の世界を招来するおそれもあるが、ここではそれを問うことはしない。

自由競争との名目で不必要で不適切な評価を防ぐ一つの方法は、公正適格な審判を配することにあるが、これ程「言うは易く行なうは難し」なるものはない。また、現時点での科研申請の評価体制は、審査員にとっても審査時間を十分に与えられず不本意な判断を強いることになっている。また、もし「独創性」を発掘し勇気づけることを科研費の一つの目的とするならば、既にあるものの改善をしたり発展を探るといふことは本質的に異なる視点を必要とする。

新しくすぐには理解され難いような事柄を研究しようとする場合、申請者も誰が審査員か分からないままに万人に「分かりやすい」申請書を提出するのは極めて困難であろう。そこで、その申請書を誰が主として読み判断するのか申請以前に申請者に認知されていなければならない。

一方で人々の混みあった現世での智慧として、日本文化では比較や競争をしないで済ますと言う方便が行き渡ってきた。その結果審査員を事前に公表することをためらう風潮が、権威を高めるために事柄を明らかにしないと云う家父長主義(「黙って俺についてこい」として温存されてきた。ということは審査員の本心からの評価をすら期待され得ない。

しかし、少なくとも学術研究の分野では、物事を鮮明にするための研究活動なのだから、間違いを含みつつもその時々判断としての研究の評価と支援を、できる限り公正で適切にする必要がある。特に官僚的评价体制だけでは評価に大いなる偏りがあらわれる可能性がある。そこで、「評価者の評価」と「見逃されている研究の評価」のために、新しい評価を試みることを目的とする。そのために、世間の毀誉褒貶、世間からの圧力に超然としておられる人々を分担者として迎え、不服の事由の正当性を調査する民間評価機構を作ることができかどうかを調査・研究する。

基盤研究(C)	研究機関名	東京工業大学	研究代表者氏名	井上 淳
---------	-------	--------	---------	------

研究組織(研究代表者及び研究分担者)(研究分担者も、本研究計画に常時参加する者です。)						
氏名(年齢)	所属研究機関・部局・職	現在の専門	学位	役割分担 (本年度の研究実施計画に対する分担事項)	平成16年度	エフォート
					研究経費	
					(千円)	(%)
井上 淳 (59)	東京工業大学・大学院理工学研究科・教授	偏微分方程式論	理学博士	分担者の監督	1,415	20
増田久弥 (65)	明治大学・理工学部・教授	解析学	理学博士	偏微分方程式関連の見識の提供と独自の見解による審査	300	5
吉川敦 (60)	九州大学・大学院数理学研究院・教授	偏微分方程式論	理学博士	偏微分方程式の数値解析的側面の研究	300	5
合計 3 名				研究経費合計(研究(1)のみ該当)	2,015	

研究計画

(企画調査の具体的方法について研究代表者・研究分担者の相互関係(役割分担状況)も含めて記入してください。
また、この研究計画と主要な経費との関連性についても併せて記入してください。)

○ 平成 16 年度研究計画・方法は以下の通りである。

まず、科研費の採否に対し不服があり再点検を希望する人々の申請書を我々にまで提出してもらおう(このためには既存の関数方程式分科会のメーリングリストを活用させてもらう予定)。分担者と代表者が不服を申立てている申請書を読み、意見を聞き、必要に応じてその申請内容の専門家を集めた研究集会を開き質疑応答する。その結果、何等かの助言を審査機関及び申請者に対して行なう。

このためには、研究集会開催のための旅費が必要でそれに少なくとも 150 万円程を充て、会議室使用料、資料を貯えておく計算機環境、専門知識の提供に対する謝金等も要求している。

絶対的な評価は神ならぬ身では不可能なのだから、原則として、結果、審査過程は公表することを想定し、審査の間違いの可能性を減らし、次回のより良い選択へと結び付けるように努力する。

科研分担者への分担金は、それぞれが不服申立者の講演や関連事項の調査のための旅費として用いられる予定である。また、最近問題になっている科研費使用に関する不透明さを払拭するために、分担金についての簡単な報告を科研分担者へ求めるつもりである。

○ 平成 17 年度以降の研究計画・方法は以下の通りである。

この企画調査申請は 1 年限りのものだが、目的から考えると 1 年限りではむしろ意味がない。そこでこれ以降の計画を述べておくこととする。

不服審査だけでなく、過去における採用者の研究のその後についても調査し、審査員の判断が適切であったかどうかを検討し、その結果を公表する。これも、過去の審査員を糾弾するためではなく、審査員の審美眼に「打率」を割り振るのである。「官の無謬性」に類した誤った思い込みを打破したいものである。

更に、このような調査及び結果公表によりその存在意味が認められるようにし、科研費申請書を学術振興会のみならず申立所(この場合、科研費民間評価機構(数学部門解析系)とでも名称を変更し、官製のそれとは重ならないように審査官を選びその名前は事前に公表し、審査内容も公表を原則とする)に同時に提出してもらい、その評価内容を比較検討する。

他の組織との関連性 (例えば学会等との関連性について記入してください。)

日本における数学者は日本数学会の会員であることが多いし、何等かの分科会に所属している。科研費審査員の選ばれ方を推測した時、つい我々がしてしまう「政治的配慮」をできるだけとり除くことが好ましいので、必要に応じて物理学会や米国、英国、仏国、独国、韓国、中国等々の数学会会員の支援を得ることもあろう。

基盤研究(C)	研究機関名	東京工業大学	研究代表者氏名	井上 淳
---------	-------	--------	---------	------

研究経費の明細 (記入に当たっては、基盤研究(C)(企画調査) 研究計画調書作成・記入要領を参照してください。)					
会議費		印刷費		消耗品費	
事 項	金 額	事 項	金 額	事 項	金 額
会議費	200	報告書	100	紙	10
				鉛筆	5
計	200	計	100	計	15
国内旅費		外国旅費		謝 金	
事 項	金 額	事 項	金 額	事 項	金 額
調査・研究旅費	1,300			専門的知識の提供	200
研究打合せ旅費	100			資料提供・閲覧	100
計	1,400	計	0	計	300
その他					
事 項	金 額				
計	0				

